

## 7-5 小学校 6年生社会科 指導事例

# 「古代ヘタイムスリップ! あなたならどちらを選ぶ?」

### 【単元目標】

- ・狩猟・採集や農耕の生活について調べ、それぞれの時代や生活の特徴を分かるようにする。
- ・長い時間をかけ、次第に人々の生活が変化していく様子を理解し、国の形成について関心をもつ。

### 【目指す子どもの姿】

- ・二つの時代の人々のくらしぶりを比較しながら、自分なりの視点を明確にして考えをもつ姿
- ・自他の考えを比べることを通して、自分の考えを広げたり深めたりする姿

## 1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全4時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p><b>ここはどこ?どんな時代?①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文時代の人々のくらしを現代と比較して考える。</li> </ul> <p>C: 狩猟をしていた時代。獲物を狩る。木の実を集める。</p> <p>C: 服装も住まい方も違うね。</p> <p>C: 縄文人は、現代人と比べて背も低いし、寿命もかなり短い。</p> <p>C: どうしてだろう?衣食住と何か関係があるのかな?</p> <p><b>縄文人は、どのような生活をしていたのだろうか?①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことから縄文時代の生活の仕方をまとめる。</li> </ul> <p>C: 狩りには槍などの道具を持って行った。女性は家の周りで採集して</p> <p>る。</p> <p>C: 大きな獲物は、みんなで分け合って食べていた。</p> <p>C: 木の実など硬いものは、土器で煮炊きして食べた。火を使っていた。</p> <p>C: 主食がない…。栄養が少なかったから寿命が短かかったのかも…。</p> <p>C: 次の弥生時代と何が違うのかな?</p> <p><b>弥生時代の人々は、どのような生活をしていたのだろうか?①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弥生時代の人々のくらしを縄文時代と比較しながら考える。</li> </ul> <p>C: この時代から米作りが中心になったんだね。</p> <p>C: 安定した食料が手に入るようになった。寿命も少し延びた!</p> <p>C: 移住しなくなった。むらができた。指導する人が現われた。</p> <p>C: でも、争いが始まった。土地や水の奪い合い…。</p> <p>C: 縄文時代の方が幸せだったかも…。</p> <p>C: そうかな?弥生時代の方がきっとよいはず。</p> <p><b>生活するならどちらを選ぶ?縄文時代 or 弥生時代?①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの時代を比較しながら、双方のよさを考える。</li> </ul> <p>C: 僕は、縄文時代。狩猟生活はワイルドでかっこいい。</p> <p>C: 私は、弥生時代。何ととっても米が食べられる。安定した生活。</p> <p>C: 奪い合いや貧富の差は嫌だな。</p> <p>C: よいところもあれば…。私はどうしようか悩むな…。</p> <p>C: このあと人々のくらしは、どのように変化していったのだろうか?</p>	<p>ポイントになる学びのプロセス</p> <p>関心をもつ</p> <p>自分の意思を 決定する</p>

## 2 政治的教養を育むためのポイント

### ポイント1

**比較・検討していく中で、自分の意思を決定することを大切にしましょう。**

今も昔も「人々の生活」いう**共通の視点**をもとに考えていくと、児童も衣食住という普遍的な視点をもとに当時の人々の生活を考えやすくなります。今回は、「縄文時代と弥生時代」を例に挙げましたが、この他にも、「奈良時代と平安時代の服装や食事の違い」、「江戸時代と明治時代の街並みの変化」など、比較しながら考えられる単元はいくつか挙げられます。

この学習の場合、どちらが正しいかや望ましいかという結論にはしてはいけません。大切なのは、児童一人ひとりが立場や論点を明確にして自分の意思をもつということです。「食事で考えると…」「住まいのことを考えると…」「人との結びつきを考えると…」というように、**様々な視点で児童が語っていく**ことに価値があります。クラスでそれぞれが自分の思いを語り合う中で、他者との考え方に違いが表出され、「どうしてそう思うの?」「こう考えたらどう思う?」というような対話が自然と生まれ、学習問題に主体的に考えていくことができるようになります。たくさんの考え方があってよい、みんな違ってよいという学校や学級の風土も大切にしていきたいでしょう。

### ポイント2

**事実をもとに考え、判断できる姿勢を身に付けさせましょう。**

教師は、歴史的な事実と児童の推測や想像での語りを分けて学習を進めていくとよいでしょう。板書で色分けや囲い込みをして分かりやすくすることも大切な手立てです。

また、資料などを扱う際は、文献等の引用や出典でも明記を忘れないようにすることを児童にも指導することも大切です。そうすると、児童の発言や考えにも、「〇〇さんの考え方」「△△さんの意見」というように個別化され、互いの意見が尊重するよう意識されていきます。